

市議会議員小池みよ子の

ひたすら鹿嶋のために

活動報告

Vol.17



小池みよ子
後援会会報 vol.17

【発行】

小池みよ子後援会

〒314-0034 鹿嶋市鉢形1493-2

TEL 0299-83-5252

携帯電話: 090-1690-0136

所属委員会 総務生活委員会委員長/議会運営委員会/議会改革検討協議会/鹿行広域事務組合議会議長

議会報告 平成28年度3月市議会 一般質問

議員として、私の思いを込めた一般質問です。

今年も木瓜バラ
が咲きました



桜の季節が過ぎ、新緑の美しい季節となりました。朝、窓を開けるのが楽しみです。さて、震災から5年、震災復旧も残すところ液状対策のみとなっております。原発事故の後始末が大きな課題です。子どもの甲状腺がんが増えているとの報告も聞こえてきます。まだまだ安心はできません。敬老会についても紆余屈折がありました。読んでください。これからも、高齢者をささえていきたいと思えます。晴れて私も昨年末に高齢者の仲間入りをしました。早速介護保険の納付書が届きました。税金に追いかける春でもあります。小泉進次郎氏は、65歳を高齢者と呼ぶのをやめようという発言をしました。私も賛成です。高齢者まだまだ元気です。

「住んで良かった」「住むなら鹿嶋」の実現に向けて28年度も努力していきます。

皆様の思いがどの程度反映されているか読んでみてください。ご意見もお寄せください。

質問1、長寿をたたえる事業（敬老会）について

Q₁₋₁ 12月議会にて敬老会についての質問に対しての答弁が「これからの実施に向けてのアンケート調査の結果に基づいて開催」と聞いておりますが、実施方法はどのようにしていく予定か、対象年齢、予算等についてお聞かせください。

A₁₋₁ 錦織市長

アンケート調査の結果は現行どおり各小学校区で実施するという意見が半数を超えました。さまざまな観点から検討した結果、基本的にはこれまで同様、地区の皆様の手づくりによる敬老会を継続していくこととし、対象者につきましては、今まで以上に敬老会の出席価値を高めるため、節目年齢、古希73歳、喜寿、米寿、白寿、100歳以上の方とし、出席率の向上に繋がればと考えた次第であります。

A₁₋₁ 健康福祉部長

実行委員対象で37.5%の方から回答をいただきました。「現行どおり実施」が37.2%、「現行どおり実施するが欠席者には祝品を配布しない」が21.1%、「市全体で一カ所又は2カ所に集約縮小して実施」が20.7%、「敬老会自体をなくす」が6.6%でした。内容については、「現行どおり式典、アトラクションの2部構成でよい」が51.8%、「式典、節目年齢、米寿、白寿などへの記念品授与と文化的事業の開催」が20.9%、「文化事業のみの開催」が0.9%でございました。

Q₁₋₂ アンケートの結果を受けて、継続の方向で進めるという方針は理解いたしました

節目年齢で祝う具体的な年齢についての答弁を求めます。27年度と比較しての人数の推移、予算の推移についても、あわせてお答えいただきたいと思えます。実施方法もわかる範囲で、学校単位でという答弁をいただきました。市長から「これからは食事もできるのでは」という答弁をいただきましたが、実施方法についてもわかる範囲で結構ですので答弁をお願いしたいと思います。

A₁₋₂ 健康福祉部長

見直し後の対象者は、古希、喜寿、米寿、白寿、100歳以上の方いたしました。古希を加えた理由は、70歳という節目年齢であり、長きにわたって地域の発展に寄与したことに対する感謝の意をあらわす最初の年齢にふさわしいとの判断でございます。人数の推移は今後3年間で27年度の対象者から約3分の1に減少になります。予算については約900万円を見込んでおります。実施方法については、企画、運営など、これまで同様、各地区の実行委員会をお願いしていきたいと考えております。

Q₁₋₃ 浮いた分の予算はあくまでも高齢者のために使ってほしいと思えます

一般会計に回されるのではなく、お年寄りのために今までとってきた予算であるならば、例えばコミュニティバス、ドア・ツー・ドアのデマンド交通の部分に充てて、敬老会で減らした分は、こちらに充てたということであれば、納得すると思えます。

A₁₋₃ 健康福祉部長

平成28年度の高齢者関係の予算増の内容は、シルバー人材センター補助金、緊急通報システム整備事業、地域交通利用者料金助成事業、老人福祉センター管理経費、高齢者サービス調整会議関係、日常生活圏域高齢者ニーズ調査事業委託の増が合計で一般会計のほうで1,211万6,000円の増となっており、そちらに当てる予定です。

要望 それは別に敬老会の予算があってもなくても必然的に出ること、私が言いたいのは、市民に説明できるような予算づけをしていただきたいと思えます。

この後、議会により付帯決議が提出され、28年度は75歳以上を対象とし、記念品は出席者のみとするという市の見解が示されました。

↓ ウラ面に続きます。

質問2、東日本大震災から5年。鹿嶋市の今後の対策は

Q1 液状化対策工事の進捗状況、高額と考える防災井戸の設置経費と設置状況。個人の井戸所有者と防災協定を結んで。原発事故がもたらすであろう子供たちへの健康被害の心配はないのかについてのご答弁を。

A1 錦織市長

当時、本市も震度6弱という大きな揺れとともに、津波や液状化などによって甚大な被害を受けましたが、これまで市民の皆様を初め国や県、多くの関係機関などから多大なご支援、ご協力をいただきながら、復旧復興に全力で取り組んでまいりました。液状化対策の進捗については、国が示した集中復興機関の5年間で事業を完了することが困難な状況で10市の首長で液状化対策実施自治体首長連絡会議を組織し、内閣総理大臣を初め関係大臣に要望活動を展開した結果、国に於いて復興・創生機関として平成28年から5年間の制度延長がなされました。今後も関係市と連携を図りながら国への要望活動を積極的に進めてまいります。

A1 都市整備部長兼水道事業都市整備部長

地区内全ての工事の完了は平成29年度末となる予定ですが可能な限り早期に完了できるよう事業調整に努めております。液状化対策工事を除き、今年度末をもって全ての工事が完了の見込みとなっております。

Q2 次に防災井戸の設置状況と費用、そして今後について

飲用可とされる井戸が極端に少ないと伺っておりますが、不可であれば何が原因で飲めないのかもお聞かせください。

A2 市民生活部長

災害に強いまちづくりの一環として、各まちづくりセンターや地区公民館など、合わせて32カ所に防災井戸整備を行ってまいりました。手動で約187万円、電動で約103万円程度の費用がかかりました。飲用不可の原因は、大腸菌、鉄分、あるいはその他の化合物、一般細菌が検出されていることから、生活用水としてトイレやお風呂、あるいは洗濯などの利用として非常時の供給に備えています。非常用井戸の一部は、煮沸や散水などで毎日井戸を利用して地下水を流動させることで飲料可能となる場合もありますので、施設管理者に積極的な利用をお願いしてまいりたいと考えております。

Q3 3.11の震災の際は、個人の井戸の提供をしていただき、大変助かったことを皆さんは鮮明に覚えていることでしょうか。当時提供して下さった方から「いつでも提供するが、水質に保証が持たないので、検査の費用を少しでも補助してもらえないだろうか。そうすれば安心して提供できる」と言うお話を伺いました。「防災協定を結んでいる井戸水です。安心してお使い下さい」と看板を掲げさせてもらったらいかがでしょうか。市はどのようにお考えでしょうか。



A3 市民生活部長

市の防災井戸は手動用、停電でも使えます。皆さんの自家用井戸はほとんどが電動式と思われる、停電の際には手動用が大いに役立つとして判断し、整備してきたところです。議員のご提案の趣旨には賛同できますので、ほかの市町村の実施方法、課題などを整理、研究して進めてまいりたいと思います。

Q4 子ども達の健康状況、甲状腺の異常が子ども達に見られると報道で伺っております

鹿嶋の子ども達は全く心配ない状況なのではないでしょうか。検査の必要性はないのでしょうか。お答えください。

A4 健康福祉部長兼福祉事務所長

市独自の検査の必要性は低いと考えております。健康福祉事業等での不安解消に努めるとともに、国や県、関係専門機関からの情報を踏まえ対応を判断してまいりたいと考えております。

A4 市民生活部長

鹿嶋市の空間放射線量は、市役所及び大野出張所の、2カ所の遠隔監視施設で常時監視しています。市役所2階の環境政策課前に設置のモニターでいつでもごらんになれます。低い数値を示しています。

質問3、災害弱者と呼ばれる方のための福祉避難所の設置と、個人個人への対応は進んでいるのか

Q1 福祉避難所という言葉をよく耳にします。鹿嶋市には、その指定された避難所はあるかと市民から質問を受けました。障がいの状況に合わせた手厚い準備が必要かと考えられます。市のお考えを簡潔にお聞かせください。

A1 健康福祉部長兼福祉事務所長

避難行動を支援する方に関しましては行政区、あるいは市の職員が対応することになると思います。

質問4、病児保育室の設置計画はどこまで進んでいるのか

Q1 これから鹿嶋で仕事をしながら子育てをする、働く若い父親、母親にとっては、なくてはならない施策かと思われます。鹿嶋市の考えと、今後の計画、見解をお聞かせください。

A1 錦織市長

29年度の実施に向けて市内の事業所から病児保育事業開設の意向をいただき、民間委託として施設整備に係る助成金を平成28年度当初予算に計上いたしました。さまざまな保育ニーズに対応できる環境づくりを進めてまいります。



要望 保育離職がないような対策、施策を推進していただきたいと思っております。



震災で落ちた橋が完成しました

あなたの声を大切に！

ブログも覗いてみてください。



皆さまのご意見もお気軽に
お寄せください

小池みよ子の思い

検索 <http://plaza.rakuten.co.jp/hatigata/>